

---

# 信頼とは

ピロシキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
信頼とは

【コード】  
N0336M

【作者名】  
ピロシキ

【あらすじ】  
思ったままを書きました

「信頼」という言葉がある。

信頼とはなんだろう？

俺は考察する。

「信頼を裏切られた」ということを言う人がいるが、それは果たして信頼していたといえるのだろうか？

信頼しているのなら「裏切り」ととれる行為にも何か理由があると思うのが「信頼」しているということではなからうか？

でなければ「信頼」という行為はただ「自分に都合がいいことをしてくれると確信している状態」を表す言葉になってしまう。

だが、もし「裏切られても構わない」という精神状態を「信頼」と呼ぶのも間違っていると思う。

「裏切り」と思わないことが「信頼」していると言うのはいささか暴論であるし、それは完全に「妄信」であると言えるだろう。そんなものは「信頼」というモノに値しないと私は考える。

では「信頼」とはなんだ？

私は相互の理想的精神状態だと思う。

信頼とは元来一人で勝手にできるものではないのだ。

「その相手のために何かをしてあげたい」と互いに思える状態であると私は考える。

ここで一番大事なのは見返りを求めてはいけないということだ。見返りを求めてしまった瞬間にエゴというものがどうしても生まれてしまう。

そうではない。

「自然」と「相手のために」と思えることが大事だ。

そしてそういう気持ちは相手には伝わっているものである。

お互いが互いを思いやり、それが互いに伝わり合ってる状態。それが理想的であり、唯一の「信頼関係」であると思う。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0336m/>

---

信頼とは

2011年1月30日20時46分発行